

校長	教頭	起案者

令和7年度 第3回 学校運営協議会会議録

日時：令和8年2月18日（水） 14：30～16：00

場所：山梨県立甲府第一高等学校視聴覚室

出席者：荻原有紀 様 高相正樹 様 穴水健二 様 末木浩一 様 秋山宏子 様
 中村和彦 様 赤池 亨 様 菅谷 信 様 依田訓彦 様 埴原一也 様
 飯島清樹 坂本容崇

《次第》

司会 教頭

- 1 はじめの言葉（司会）
- 2 学校長挨拶
 - ・強行遠足について
 - ・進路希望調査・第2回オープンスクールについて
 - ・WWL 最終年度 成果と効果について
- 3 会長挨拶
- 4 議事 【議長 会長】
 - (1) いじめ対策について
 - ・まだ、データの収集中で2月17日現在のデータである。
 - ・保護者から申告があったがこれは対応済である。

Q 特に意見等はなし

- (2) 学校評価について
 - ・80%以上を達成基準とした。
 - ・概ね達成できた。

委員：教職員の回答で「ワーク・ライフ・バランス」が70%と低い。これは、自分のことなのか、そういう働き方をしている先生を見てできていないと言っているのか。

校長：自身ができていないという意味だと考えている。

委員：ワーク・ライフ・バランス、心身の健康を保つことが教育の質を向上させる。

校長：部活動ガイドラインの遵守を呼びかけている。時には業務分担をするなどしながら休めるよう指導している。実際に全体としては時間外勤務をする職員の数も時間外勤務時間も減少傾向にある。

委員：先生方は夏休みには休めているのか。時間がオーバーした分は長期休業にまとめて取ればよい。

委員：夏休みは世間の目があるから休めない。

校長：残って仕事している先生は固定化している。

委員：やらされているのか、楽しんでやっているのかで受け止め方が異なる。

委員：頑張っているという実感や遣り甲斐を否定するわけにもいかない。意欲をそぐようなこともできないから、一概に止められない一面もある。

校長：とはいえ、働き方改革は喫緊の課題で、県も来年度から更にテコ入れをする。

委員：時間外の管理はなかなか難しい。替えの効かない先生がいる。副顧問のサポートにより対応するしかない。

(3) WWL について

- ・ 3月18日に最終となる「2025WWL 山梨高校生国際会議」が開催される。
- ・ お時間の許す限りでご出席ください。
- ・ 2月16日（月）の検証委員会について資料を用いて説明。

(4) SSH について

- ・ WWL の後継として SSH に申請をした。本校のこれまでの成果を更に発展させることを目的とする。理系・文系の垣根なく、「基礎枠（文理融合型）」で申請した。SSH を通して学校改善を進めてゆく。山梨大学にもお力添えを頂く。

委員：現在在学している探究コースの生徒の中には、志高く「このような探究活動をしたい」という明確な思いを持って入学した生徒がいる。本校の探究科は偏差値も高く、相応の学力と努力がなければ入学できないコースであり、生徒たちは大きな期待と覚悟を持って進学している。しかしながら、探究指導担当の先生によって指導の方向性や関わり方に差があり、思うように活動が進められず、結果として心が折れてしまった生徒がいると聞いている。せっかく努力を重ねて入学したにもかかわらず、その思いが十分に実現できない状況があるとすれば、大変残念なことではないか。

来年度より WWL から SSH へ移行するにあたり制度として何が変わり、どのような取り組みが可能になるのかを教職員が共通認識を持ち、生徒のやる気を損なうことのないよりきめ細やかな探究指導につなげて欲しい。

委員：山梨大学と甲府一高の立地からしても連携が互惠関係に向かうと考えられる。そもそも、理系や文系と分けているのは日本くらいであり、どちらにもよらない人材育成がこれからの社会では必要である。山梨大学の新学環においてもいわゆる「理系」「文系」ではない両方を併せ持った人材育成を目指している。そういう意味でこの方向性は大切。

- ・ 採択の成否は国会で令和8年度予算が可決されてからのため、4月にずれ込むこともあり得る。
- ・ 研究開発組織の概要図からもわかる通り、学校運営協議会には今後とも指導助言をお願いしたい。

(5) 生徒指導規定の改訂について

- ・ 令和4年に生徒指導提要在改訂された。これに伴い、本校でも生徒指導規定の改訂を進めている。今回は通学規定と交通違反等に関する規程の改訂についてである。これらの改訂は令和8年4月より適用される。

Q：特に意見等はなし

(6) その他

- ・ 非公開事項

5 連絡事項

特になし

6 情報交換、懇談（各委員の方から）

7 閉会の言葉（司会）